



プロペラが奉納されている矢田坐久志玉比古神社の楼門

大和郡山市矢田町で

門にプロペラ「航空祖神」

(奈良まほろばソムリエの会理事 大江弘幸)



(住所) 大和郡山市矢田町965
 (祭神) 櫛玉饒速日命
 御炊屋姫命
 (交通) 近鉄郡山駅から奈良交通バ

ス「横山口」下車、徒歩約10分
 (拝観) 境内自由
 (駐車場) 有(無料)

矢田坐久志玉比古神社 (大和郡山市)

矢田坐久志玉比古神社は、矢田丘陵から東に広がる田園地帯にある古社です。主祭神の櫛玉饒速日命は、天照大神の孫の邇邇芸命が、九州・日向の高千穂峰に降臨するよりも以前に天降った神さまと伝わります。櫛玉饒速日命は当初河内国に降り立ちますが、



宮の地を求め再び岩でできた天磐船に乗って天

空を飛び、3本の矢を放ち、落ちた場所を宮と定めることになりました。社伝によれば2番目の矢が落ちた場所がこの神社で、別名「矢落大明神」とも呼ばれ、境内には「二の矢塚」があります。神社の東南の小字「

の矢」という場所には、「一の矢塚」があり、また土地の人が古くから「みやどこ(宮所)」と呼ぶ北西の場所には、「三の矢塚」があります。主祭神とともに祭られている妻の御炊屋姫命は、この地の大豪族・登美長髓彦の妹でした。長髓彦は日向の地を出て大

和に入った邇邇芸命のひ孫の神倭伊波礼毘古命(後の神武天皇)と戦い、破れました。石造りの鳥居をくぐる正面には立派な楼門があり、飛行機のプロペラが奉納されています。これは空を飛ぶ天磐船神話から当神社が「航空祖神」とあがめられていることに由来します。神代と今をつなぐ古社です。